

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成17年7月21日(2005.7.21)

【公開番号】特開2004-120147(P2004-120147A)

【公開日】平成16年4月15日(2004.4.15)

【年通号数】公開・登録公報2004-015

【出願番号】特願2002-278420(P2002-278420)

【国際特許分類第7版】

H 0 4 N 5/225

// H 0 4 N 101:00

【F I】

H 0 4 N 5/225 F

H 0 4 N 5/225 Z

H 0 4 N 101:00

【手続補正書】

【提出日】平成16年12月3日(2004.12.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

画像撮影装置において、

該画像撮影装置の上面端部付近に形成した指先で該画像撮影装置を把握するための凹部と、

前記上面側であって且つ前記凹部の近傍に設けた音声等を録音する録音部と、
を備える画像撮影装置。

【請求項2】

前記上面側であって且つ前記録音部よりも中央よりに設けたフラッシュ部を更に備える
請求項1に記載の画像撮影装置。

【請求項3】

前記フラッシュ部と前記凹部との間に前記録音部を設けた請求項2に記載の画像撮影装置。

【請求項4】

音声等を録音する際に、前記フラッシュ部を突出する請求項2または3に記載の画像撮影装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

【課題を解決するための手段】

前記目的を達成するために本発明による画像撮影装置は、以下に示す構成とする。すなわち本発明の請求項1は画像撮影装置において、該画像撮影装置の上面端部付近に形成した指先で該画像撮影装置を把握するための凹部と、前記上面側であって且つ前記凹部の近傍に設けた音声等を録音する録音部を設けた構成とする。

本発明の請求項2は請求項1において前記上面側であって且つ前記録音部よりも中央よりに設けたフラッシュ部を更に設けた構成とする。

本発明の請求項3は請求項2において前記フラッシュ部と前記凹部との間に前記録音部を設けた構成とする。

本発明の請求項4は請求項2または請求項3において音声等を録音部にて録音する際に、前記フラッシュ部を突出する構成とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

【作用】

上記請求項1によれば、指先が凹部に誘導されるため、録音部に指が被ることを防止できる。

上記請求項2によれば、フラッシュ上面中央に設置することにより装置本体を把持しやすくなり、装置、例えばカメラを構える際のプレを抑えることができる。

上記請求項3によればフラッシュ部と凹部の間に録音部を設けたことで録音部に指先部が覆い被さろうとしてもフラッシュ部に指先があたり録音部に覆い被さることはないとともに、凹部が設けられていることから、指先はその凹部に誘導され録音部に覆い被さる可能性も少なくなる。

上記請求項4によれば、立設したフラッシュが壁となり、装置本体を把持する指は録音部より外れる位置に置かれ指が録音部に被さることはない。また、電源オン時または録音時にフラッシュが立設すれば、フラッシュを別に立ち上げる入力操作は必要なくなるとともに最適な装置、例えばカメラ把持状態に導くことができる。さらに、ポップアップしたフラッシュが邪魔になり指が録音部を塞ぐことはない。すなわち、動画撮影時に構える左手の指がカバー凹部に自然に誘導され、仮にカバー凹部に誘導されない場合では、上カバーと同じ面に配置される録音部がポップアップしたフラッシュの脇にあるためフラッシュの出っ張りが邪魔となって指は自ずから録音部から外れた位置に置かれる可能性が高く、間違って指が録音部上に被さっても指の一部がポップアップしたフラッシュの上に当たる可能性が高いため、マイクと指の間には隙間が生じ、この隙間から録音が可能となる。

なお、フラッシュと同様、被写体方向に録音部を向けた場合、被写体の音声の録音感度を高くすることができる。

画像撮影装置上面の一方端に操作部を設け、他方端に録音部を設ければ、録音時に操作部による押圧音などの雑音混入を防止することができる。

録音部による録音中はフラッシュ部の光照射を停止すれば、録音中に光源による電気的ノイズやフラッシュ音等の雑音混入を防止することができる。

画像撮影装置の上面端付近に操作部を設け該操作部の近傍に録音部を設ければ、操作部の上に指が自然に置かれるので、指が録音部を覆うことを防止できる。特に操作部が撮影ボタンであれば、録音中にそのボタンを押す必要があることから、その効果は大である。

被写体の拡大や縮小を行うズーム部を備え、録音中は該ズーム部の動作を停止すれば、雑音の混入を防止することができる。